



タイトル「**2024年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT3559		
科目名	海外安全対策		
担当教員	吉田 正法		
対象学年	3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	水 3		
講義室	1407	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	専門・危機管理		
科目の位置付け（開発能力）	<p>■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP7-C〔他者理解・倫理観・公共心〕人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み、社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。 DP1-E〔学識・専門技能〕専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。</p> <p>DP3-G〔状況把握力・判断力〕自らの置かれた状況、及び自己が帰属する集団の内外の状況を的確に把握し、適切に対応することができる。 DP4-I〔理解力・分析力〕文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。</p> <p>■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンプリック（C R）との関連 C1倫理的思考・社会認識－20% E1学識と専門技能－50% G1状況把握－20% I1理解・分析と読解－10%</p>		
教員の実務経験	行政官として国際情勢分析や在外邦人保護措置に携わった経験を踏まえ、海外における脅威の現状、情報収集と分析の意義と重要性、政府における取組の現状と課題に対する理解を深めることができるよう、実務的な視点を踏まえて講義を行います。（第2回～第12回）		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期 ～ 4 定着期		
科目概要・キーワード	<p>現代社会では、日本の企業や個人が海外に幅広く進出しています。世界各地で戦争や紛争、またはテロリズムや犯罪に巻き込まれる可能性のある企業は国際的な企業活動における危機管理が求められ、留学や海外旅行などにおいても個人レベルで危機管理が求められています。これらの海外安全対策について、外務省や日本大使館などの在外公館は在外邦人に対して安全確保のための様々な情報を提供していますが、外務省や警察などの機関が、邦人保護のためのどのような活動を行っているのか、また企業はどのように取り組んでいるのかを考察することで、海外安全対策に関する理解を深めることを目標としています。授業形態は講義形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。</p> <p>■キーワード 海外渡航者、企業の海外進出、邦人援護、在外公館</p>		
授業の趣旨	<p>■副題 海外安全対策について国、企業、個人による取組の在り方を学び、ますます国際化の進展が予想される時代にあって、自らの安全だけでなく海外で安心して活躍できる組織作りのできる社会人を目指しましょう。</p> <p>■授業の目的</p>		

	<p>在留邦人数や海外渡航者が増加する中、多くの邦人が海外で事件事故に遭遇している現状を確認し、旅行者や企業の駐在員など海外にいる日本人や日本企業の権益の安全確保に向けた、外務省、警察庁など政府における取組、海外進出企業の本社、旅行業者、その他の団体における取組、そして海外で活動する在外公館、企業の現地拠点、日本人会や商工会議所など邦人団体による取組を概観し、実際に邦人が被害に遭った事件を具体的に挙げて、政府、企業、現地の関係者による取組の在り方を検討し、課題を見つけ出し、今後の取組の在り方について考察する能力を身につけることが目的です。</p> <p>■授業のポイント</p> <p>日本は世界でも例外的に安全な国であり国民にとって幸福である反面、様々なリスクのある海外に渡航する場合には警戒心の薄さなど不利に働くことがあります。そうした海外の日本人や日本の組織の安全を確保するために、国や企業が行っている取組について、担当教員の経験も踏まえて具体的に検討しながら、その現状と課題を概観するとともに課題解決の方法について考察していきます。</p>						
<p>総合到達目標</p>	<p>■海外における日本人や日本の組織の安全対策の必要性を説明することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・治安情勢や疾病などを取り上げて日本と諸外国を比較することにより日本が例外的に安全であることに気づくことができる。(第2回～第5回) ・複数の事例について考察することにより、日本人が海外安全対策を強化すべきことに気づき、それを説明することができる。(第2回～第5回) <p>■海外安全対策に向けた、国内の政府や海外進出企業、海外の在外公館、企業の現地拠点、邦人団体などによる取組の現状と課題について概要を説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外務省や在外公館など政府機関による海外安全の取組を概観し、その概要を説明することができる。(第6回、第11回、第13回) ・海外進出企業自身やコンサルティング企業における海外安全対策の取組と具体的な業務を概観することにより、その概要を説明することができる。(第7回～第10回) <p>■海外安全対策の取組における課題を抽出して、今後の取組の在り方について考察することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外で発生したテロ事件に関する事例研究を行い、政府及び関係企業の取組を分析して課題を発見し、改善策を考察することができる。(第12回～第13回) ・企業による海外安全の取組を概観したうえで、効果的な取組を阻害する課題を発見し、その改善に向けた取組について考察することができる。(第7回、第12回) 						
<p>成績評価方法</p>	<p>次の方法により成績を評価しますが、いずれの方法についても提出方法は授業において指示します。</p> <p>■レポート1回 (50%)</p> <p>(評価の観点) 海外安全対策の必要性、個人の意識改革の必要性、官民の様々な組織における取組の現状などに関する専門的知識の修得の程度と、それらを踏まえて具体的な課題の解決にむけて自ら考えて答えを導き出し、自らの言葉で表現できる力を修得しているかについて評価します。</p> <p>(フィードバックの方法) 授業の時間中にレポートの着眼点について解説します。</p> <p>■リアクションペーパー14回 (50%)</p> <p>(評価のポイント) 授業の内容や進行についての意見、海外安全対策に対する意識の変化、課題解決に向けた意見などを自分の言葉で表現できているかを評価します。</p> <p>(フィードバック) 授業時間中に解説します。</p>						
<p>履修条件</p>	<p>特にありません。</p>						
<p>履修上の注意点</p>	<p>授業中は、私語など他の学生の学修の妨げになる行為をしないこと。そうした行為があった場合には注意し、改善しない場合は退席を促すことがあります。</p>						
<p>授業内容</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="464 1592 517 1637">回</th> <th data-bbox="517 1592 1490 1637">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="464 1637 517 1879">1</td> <td data-bbox="517 1637 1490 1879"> ①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 授業の全体の構成、授業の目的と進め方、統合到達目標、成績の評価方法について理解できるようになる。 ③予習 (60分) シラバスの全体をよく読んで、授業の全体の構成について十分に把握しておく。 ④復習 (60分) 授業を振り返り、授業の全体の構成、授業の目的及び到達目標を踏まえて、自らの学修計画を立てる。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="464 1879 517 2148">2</td> <td data-bbox="517 1879 1490 2148"> ①授業テーマ カントリーリスク・アセスメント I ②授業概要 G7諸国やEU加盟国、豪州・NZ各国におけるリスクを理解し、説明できるようになる (E1、I3)。担当教員の実務経験を踏まえて解説します。 ③予習 (120分) 外務省の「海外安全ホームページ」に掲載されている「危険情報」などを確認し、対象国に関するリスクを把握しておく。 ④復習 (120分) 最近日本人が対象国で様々な被害に遭った事例にはどんなものがあるか、図書館のサイトの新聞記事検索を利用して調べてみる。 </td> </tr> </tbody> </table>	回	内容	1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 授業の全体の構成、授業の目的と進め方、統合到達目標、成績の評価方法について理解できるようになる。 ③予習 (60分) シラバスの全体をよく読んで、授業の全体の構成について十分に把握しておく。 ④復習 (60分) 授業を振り返り、授業の全体の構成、授業の目的及び到達目標を踏まえて、自らの学修計画を立てる。	2	①授業テーマ カントリーリスク・アセスメント I ②授業概要 G7諸国やEU加盟国、豪州・NZ各国におけるリスクを理解し、説明できるようになる (E1、I3)。担当教員の実務経験を踏まえて解説します。 ③予習 (120分) 外務省の「海外安全ホームページ」に掲載されている「危険情報」などを確認し、対象国に関するリスクを把握しておく。 ④復習 (120分) 最近日本人が対象国で様々な被害に遭った事例にはどんなものがあるか、図書館のサイトの新聞記事検索を利用して調べてみる。
回	内容						
1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 授業の全体の構成、授業の目的と進め方、統合到達目標、成績の評価方法について理解できるようになる。 ③予習 (60分) シラバスの全体をよく読んで、授業の全体の構成について十分に把握しておく。 ④復習 (60分) 授業を振り返り、授業の全体の構成、授業の目的及び到達目標を踏まえて、自らの学修計画を立てる。						
2	①授業テーマ カントリーリスク・アセスメント I ②授業概要 G7諸国やEU加盟国、豪州・NZ各国におけるリスクを理解し、説明できるようになる (E1、I3)。担当教員の実務経験を踏まえて解説します。 ③予習 (120分) 外務省の「海外安全ホームページ」に掲載されている「危険情報」などを確認し、対象国に関するリスクを把握しておく。 ④復習 (120分) 最近日本人が対象国で様々な被害に遭った事例にはどんなものがあるか、図書館のサイトの新聞記事検索を利用して調べてみる。						

3	<p>①授業テーマ カントリーリスク・アセスメントⅡ</p> <p>②授業概要 東アジア諸国、ASEAN加盟国、南アジア諸国におけるリスクを理解し説明できるようになる（E1、I3）。担当教員の実務経験を踏まえて解説します。</p> <p>③予習（120分）外務省の「海外安全ホームページ」に掲載されている「危険情報」などを確認し、対象国に関するリスクを把握しておく。</p> <p>④復習（120分）最近日本人が対象国で様々な被害に遭った事例にはどんなものがあるか、図書館のサイトの新聞記事検索を利用して調べてみる。</p>
4	<p>①授業テーマ カントリーリスク・アセスメントⅢ</p> <p>②授業概要 旧ソ連諸国、モンゴルにおけるリスクを理解し説明できるようになる（E1、I3）。担当教員の実務経験を踏まえて解説します。</p> <p>③予習（120分）外務省の「海外安全ホームページ」に掲載されている「危険情報」などを確認し、対象国に関するリスクを把握しておく。</p> <p>④復習（120分）最近日本人が対象国で様々な被害に遭った事例にはどんなものがあるか、図書館のサイトの新聞記事検索を利用して調べてみる。</p>
5	<p>①授業テーマ カントリーリスク・アセスメントⅣ</p> <p>②授業概要 中近東や北アフリカのイスラム教諸国におけるリスクを理解し説明できるようになる（E1、I3）。担当教員の実務経験を踏まえて解説します。</p> <p>③予習（120分）外務省の「海外安全ホームページ」に掲載されている「危険情報」などを確認し、対象国に関するリスクを把握しておく。</p> <p>④復習（120分）最近日本人が対象国で様々な被害に遭った事例にはどんなものがあるか、図書館のサイトの新聞記事検索を利用して調べてみる。</p>
6	<p>①授業テーマ カントリーリスク・アセスメントⅤ</p> <p>②授業概要 サブサハラ諸国（アフリカ）におけるリスクを理解し説明できるようになる（E1、I3）。担当教員の実務経験を踏まえて解説します。</p> <p>③予習（120分）外務省の「海外安全ホームページ」に掲載されている「危険情報」などを確認し、対象国に関するリスクを把握しておく。</p> <p>④復習（120分）最近日本人が対象国で様々な被害に遭った事例にはどんなものがあるか、図書館のサイトの新聞記事検索を利用して調べてみる。</p>
7	<p>①授業テーマ カントリーリスク・アセスメントⅥ</p> <p>②授業概要 中南米諸国、太平洋島嶼国におけるリスクを理解し説明できるようになる（E1、I3）。担当教員の実務経験を踏まえて解説します。</p> <p>③予習（120分）外務省の「海外安全ホームページ」に掲載されている「危険情報」などを確認し、対象国に関するリスクを把握しておく。</p> <p>④復習（120分）最近日本関係船舶が海外で被害に遭った事例にはどんなものがあるか</p>
8	<p>①授業テーマ 事例研究Ⅰ：観光客の安全確保</p> <p>②授業概要 観光客などが被害に遭った「エジプトにおける観光客襲撃事件（1997）」などの事例を研究し、リスクを理解し安全対策上の課題について説明できるようになる（E1、G1）。担当教員の実務経験を踏まえて解説します。</p> <p>③予習（120分）「エジプトにおける観光客襲撃事件」などについて、図書館のサイトの新聞記事検索などで事件の概要を調べておく。</p> <p>④復習（120分）観光業や留学支援企業の海外安全対策担当者の立場から、取組の課題と解決方法について考えてみる。</p>
9	<p>①授業テーマ 事例研究Ⅱ：駐在者・出張者の安全確保</p> <p>②授業概要 企業の駐在者などが被害に遭った「三井物産マニラ支店長誘拐事件（1986）」などの事例を研究し、リスクを理解し安全対策上の課題について説明できるようになる（E1、G1）。担当教員の実務経験を踏まえて解説します。</p> <p>③予習（120分）「三井物産マニラ支店長誘拐事件」などについて、図書館のサイトの新聞記事検索などで事件の概要を調べておく。</p> <p>④復習（120分）駐在者や出張者を海外に派遣する企業の海外安全対策担当者の立場から、取組の課題と解決方法について考えてみる。</p>
10	<p>①授業テーマ 事例研究Ⅲ：海外プロジェクトの安全確保</p> <p>②授業概要 海外プロジェクトがテロの標的となった「アルジェリア人質事件（2013）」の事例を研究し、リスクを理解し安全対策上の課題について説明できるようになる（E1、G1）。担当教員の実務経験を踏まえて解説します。</p> <p>③予習（120分）「アルジェリア人質事件」について、図書館のサイトの新聞記事検索などで事件の概要を調べておく。</p> <p>④復習（120分）海外プロジェクトを請負う企業の海外安全対策担当者の立場から、取組の課題と解決方法について考えてみる。</p>
11	<p>①授業テーマ 事例研究Ⅳ：在外公館の安全確保</p> <p>②授業概要 在外公館がテロの標的となった「在ペルー日本大使公邸占拠事件（1996）」の事例を研究し、リスクを理解し安全対策上の課題について説明できるよう</p>

	<p>になる。(E1、G1)。担当教員の実務経験を踏まえて解説します。</p> <p>③予習(120分)「在ペルー日本大使公邸占拠事件」について、図書館のサイトの新聞記事検索などで事件の概要を調べておく。</p> <p>④復習(120分)政府の安全対策担当者の立場から、取組の課題と解決方法について考えてみる。</p>
12	<p>①授業テーマ 事例研究Ⅴ：海上交通の安全確保</p> <p>②授業概要 海上交通が標的となった「マラッカ海峡「韋駄天」襲撃事件(2005)」などの事例を研究し、リスクを理解し安全対策上の課題について説明できるようになる。(E1、G1)。担当教員の実務経験を踏まえて解説します。</p> <p>③予習(120分)「マラッカ海峡「韋駄天」襲撃事件」などについて、図書館のサイトの新聞記事検索などで事件の概要を調べておく。</p> <p>④復習(120分)海運企業の海外安全対策担当者の立場から、取組の課題と解決方法について考えてみる。</p>
13	<p>①授業テーマ 個人・企業レベルが行うべき安全対策</p> <p>②授業概要 これまでの事例研究を踏まえて、個人レベルで行うべき安全対策や企業レベルで行うべき安全対策について、具体的な計画を立案することができる。(C1、G1)。</p> <p>③予習(120分)参考資料などで個人・企業レベルで行うべき安全対策について調べてみる。</p> <p>④復習(120分)特定の国を想定して、具体的な海外安全対策計画を立案してみる。</p>
14	<p>①授業テーマ 政府が行うべき安全対策</p> <p>②授業概要 これまでの事例研究を踏まえて、政府レベルで行うべき在外公館の安全対策や邦人保護施策について、具体的な計画を立案することができる。(C1、G1)。</p> <p>③予習(120分)参考資料などで政府レベルで行うべき安全対策について調べてみる。</p> <p>④復習(120分)特定の国を想定して、具体的な海外安全対策計画を立案してみる。</p>
15	<p>①授業テーマ まとめ</p> <p>②授業概要 これまで14回の授業を振り返り、海外安全対策の取組における主な課題を抽出し、今後の取組の在り方について考察することができるようになる(C1、G1)。</p> <p>③予習(120分)これまでのすべての授業を振り返って、国、企業、個人が海外安全対策として取り組むべきことと課題を抽出し、今後の取組の在り方を考えておく。</p> <p>④復習(120分)自分の将来目指す進路において、職場としてあるいは個人として海外安全対策にどのように取り組むべきか、海外安全担当者の立場で具体的に考えてみる。</p>
関連科目	国際テロリズム論 RMGT3558、テロ対策論 RMGT3528、セキュリティ論 RMGT3523、事業継続論 RMGT3351、国際協力論 RMGT3560などと密接に関連しています。
教科書	特にありません。
参考書・参考URL	<p>一般社団法人日本在外企業協会『海外安全・危機管理 標準テキスト』（日本在外企業協会海外安全センター、2008年）</p> <p>加藤晃/大越修『テロ・誘拐・脅迫海外リスクの実態と対策』（同文館出版、2015年）</p> <p>小川和久『危機管理の死角－狙われる企業、安全な企業』（東洋経済新報社、2015年）</p> <p>菅原出・ニルスビルト『海外進出企業の安全対策ガイド』（並木書房、2014年）</p>
連絡先・オフィスアワー	<p>■連絡先 開講時に告知します。</p> <p>■オフィスアワー 開講時に告知します。</p>
研究比率	<p>■危機管理領域との対応 災害マネジメント20%；パブリックセキュリティ30%；グローバルセキュリティ40%；情報セキュリティ10%</p> <p>■危機管理学と法学のバランス 危機管理学90%；法学10%</p>

